

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 2年 3月 10日

事業所名 みつばすみれ学園

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	5	・物の配置を変えてスペースを確保している。 ・適宜レイアウト変更、整理整頓をしている。	・遊びやすい環境の提供のために、施設内の環境整理をする。
	② 職員の配置数は適切である	9	5	・基準以上の人員配置をしている。他クラスから適宜応援体制をとっている。	・基準以上の人員配置をしている。欠員があった場合は早急に募集を行い、人員を満たす努力する。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	14	0	・生活空間の写真を提示し、視覚的に分かり易くしている。 ・活動に集中出来るように、環境整理を行っている（棚などに目隠しをする等）。	・現在の対応を継続していく。 ・より集中出来る環境を考え提供していく。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	14	0	・今年度より清掃職員（朝2時間）を雇用。 ・消毒など定期的実施出来ている。	・玩具の整理整頓が不十分。 ・棚、収納庫の活用を行い、整理整頓に努める。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	12	2	・クラス別に的実施している。	・年間予定に予定を設定し実施する。
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善に繋げている	13	1	・平成30年度より実施し、業務改善に取り組んでいる。	・業務改善しても不足している点については、更に改善に努める。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	13	1	・平成30年度より実施している。	・公開を継続して行っていく。
	⑧ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	12	1	・第三者評価は実施していないが、法人監事監査等で事業報告を実施している。	・必要な改善部は早急に対応していく。
	⑨ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	14	0	・適宜実施している。	・今後も研修の機会を確保していく。
適切な支援の提供	⑩ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	14	0	・実施している。	・今後も継続する。
	⑪ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	14	0	・作成したアセスメントシートを活用して、漏れのない評価を行っている。	・ツールは必要に応じて変更・改正し、正確な子どもの状況把握を行う。
	⑫ 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	14	0	・個々の状況に留意し、支援内容を設定している（児童状況・保護者からの意見を踏まえ、作成している）。	・今後も継続する。「いつ」「どこで」「誰が」等、具体的な支援が提供できるように、計画を作成する。
	⑬ 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	14	0	・児発管から支援目標について、職員に伝達され、共通理解を図っている。	・今後も継続する。
	⑭ 活動プログラムの立案をチームで行っている	11	1	・クラスリーダーが立案し、実施の際クラスで意見を出し合い提供している。	・クラス内の職員が携われるように、時間を設け立案できるように努める。
	⑮ 活動プログラムが固定しないよう工夫している	12	1	・週内でプログラムが偏らないように、立案時に気を付けている。	・プログラムタイトルが同じでも、内容は若干変えている。 ・新規性を導入しながら展開して行く。
	⑯ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	13	0	・個別に応じた訓練（PT/OT）を取り入れている。	・集団、個別のプログラムを提供し、支援を行っている。

適切な支援の提供	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	13	0	・当日担当職員から、内容や留意点についての説明があり、役割分担等を確認している。	・今後も実施していく。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10	3	・時短パート職員からは、ノートや口頭で意見交換を行っている。	・職員の勤務時間が異なり、職員全員が揃って打ち合わせてが難しいため、ノートで意見交換をしている。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	0	・職員間で連携し、利用後に記録する時間を確保している。	・支援に繋がる内容の記述に努める。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	13	0	・保護者のモニタリング内容を確認し、児童の状況や課題の把握に努めている。	・今後も実施継続していく。
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13	0	・児発管が出席している。情報は、日誌やクラス担任から得ている。	・会議内容により、保育士や看護師が出席出来るように調整をしていく。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	13	0	・関係機関との会議に出席している。	・関係機関との連携を継続していく。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	13	0	・看護師を配置し、医療的ケア児が安全に利用できる体制をとっている。	・看護師1名の配置のため、複数の医療的ケア児の受け入れが難しい。状況に応じた看護師の増員等を検討していく。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	13	0	・医療的ケア児については、指示書を提出していただいている。	・指示書内容に変更があれば、ケアに留意する。
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	13	0	・保育所、幼稚園に移行した児童については、必要に応じた巡回訪問・様子観察の実施。学校へは、就学時期に状況説明を行い相互理解を図っている。	・今後もこれまでの対応を継続していく。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12	1	・㉕同様	・㉕同様
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11	2	・伝達や書面により、他機関での課題や支援方法を把握し検討を行い、支援に繋げている。	・他機関への研修機会を確保し、事業所間の連携を通じ、助言を受ける機会を持つ。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	13	0	・三歳以上の児童が在籍するクラスは、毎月1回近隣市の保育園と交流を行っている。	・今後も継続していく。 ・交流時間が十分確保できるように、時間調整の検討。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	13	1	・関係市の会議に参加している。	・今後も継続。
	㉚	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	13	0	・モニタリングのほか、連絡帳、面談を通じて共通理解を図っている。	・今後も継続。
	㉛	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家庭支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	11	3	・家庭支援プログラムとしては実施してはしていないが、保護者との連携や父・祖父母が登園しやすい環境を提供している。 ・家族支援に繋げる環境を提供している。	・ペアレント・トレーニング研修への参加を実施し、職員の知識を深め共有化し、家族支援に活かしていけるよう努力する。
	㉜	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	13	0	・利用契約時に、要事項説明を行っている。	・今後も継続。

保護者への説明責任等	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	13	0	・児発管を中心に、支援計画の切り替え時期に保護者に伝達し同意を得ている。	・今後も継続。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ必要な助言と支援を行っているか	14	0	・モニタリングのほか、連絡帳、面談を通じて共通理解を図っている。	・今後も継続。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	14	0	・毎月1回、保護者と連絡会を実施。不参加の保護者には、会議録を配布している。	・今後も継続。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	13	0	・連絡帳や直接の相談の申し入れについては、迅速に応えられるように対応している。 ・電話連絡も状況に応じて対応している。	・今後も継続。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	13	0	・毎月園だよりを発行している。 ・ホームページやインスタグラム等で情報発信も行っている。	・今後も継続。
	③⑧	個人情報の取り扱いに十分注意しているか	14	0	・利用開始時に個人情報取り扱いについて、可否の確認を書面で行っている。	・今後も継続。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	14	0	・写真カードやイラスト等を用いて、手順や場所等の提示を行うと共に、マカトンサインなど身振りを用いて伝えるようにしている。	・今後も継続していく。より伝わりやすくする為の努力はしていく。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	13	0	・夏祭りや運動会等の行事への招待を実施。来場いただき交流を図っている。	・今後も継続。
非常時等の対応	④①	緊急事態対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	14	0	・避難訓練を毎月実施し、風水害等様々な想定を組んで行っている。 ・感染症対応マニュアル等は策定している。	・必要に応じたマニュアルの更新・改正、策定を実施していく。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	14	0	・④①と同様。	・今後も継続。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	14	0	・利用開始時に確認している。	・今後も継続。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	13	0	・指示書に基づいて対応している。 ・栄養士と給食提供の情報共有を行っている。	・今後も継続。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	13	0	・毎日反省会でヒヤリハット事例の報告をし、注意点を確認している。	・分析力を高めていく努力をしていく。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	13	0	・研修に派遣し、研修報告を実施している。 ・時事問題等を話題にあげ、問題意識を高めている。	・今後も継続。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	13	0	・バス乗車時、シートベルトの代用として安全に配慮し、チャイルドシート、カーシートを使用している。	・今後も継続。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。